

『未来応援』

住みたいまち たつのの

令和5年度の施策と取り組みを市民の皆さんにお伝えします。



コロナ禍で意識・行動が変容し、社会のあり方がこれまでと大きく変わろうとしている今、たつの市の輝く未来を切り開く気概をもって、夢を掲げる未来のかたちを描き、市民一人ひとりが温もりややすらぎを感じ、健やかに過ごせる暮らしを取り戻すとともに、地域経済の回復・成長や雇用の創出に努めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底により、各事業が再開される中で、3年ぶりに「たつの市民まつり」を開催することができました。市民の一体感や未来を担う若者の発信力に触れ、改めて、まちづくりは「市民が主役」であることを深く心に刻んだ次第でございます。

新たな商業施設の誘致により、地域の活力を牽引し、雇用とにぎわいを創出する「龍野I

C周辺まちづくり区画整理事業」につきましては、本市の経済成長の原動力として全力で取り組んでまいります。

一方、国では、「新しい資本主義」を提唱し、これまでの地方創生の取り組みをデジタル技術を活用して加速化・深化させることにより、持続可能な環境・社会・経済を目指す「デジタル田園都市国家構想」を進めるとしています。

本市におきましても、最重要課題である人口減少・少子高齢化をはじめとした地域課題の解決や、質の高い市民サービスを実現するため、デジタル技術を活用した業務改善の取り組みを加速し、「書かない窓口サービス」を開始するなど、積極かつ着実に推進してまいります。

近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震のほか、気候変

動により頻発・激甚化する自然災害につきましては、防災設備の更新や地域消防力の向上などにより、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

引き続き「未来応援 住みたいまち たつのの」の実現に向けて、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」を根本に据えながら、あらゆる人が健やかに暮らせる、包摂社会の実現に努めるほか、さまざまな行政課題に対し剛毅果敢に取り組み、基礎自治体の長として「市民の生活と財産を守る」市政運営に邁進してまいります。

1 人を育み、誰もが 健やかに暮らせる まちづくり

子どもは、未来を担う大切な

良好な住環境の確保を進めている「JRR山陽本線竜野駅周辺整備事業」につきましては、これまでの都市計画道路や駅前広場の整備に加え、橋上駅舎の整備に着手します。駅の利便性を高め、誰もが快適に暮らせる活力のある拠点づくりを推進します。

また、新宮地域の過疎対策につきましても、過疎対策事業債等を活用し、地域活力の維持・発展につながる取り組みを推進してまいります。

今後、更なる人口減少が懸念される御津地域につきましては、地域活力の維持・発展のため、スポーツ拠点施設等を中期的視点に立って検討してまいります。

企業誘致や留置のインセンティブとなる企業立地奨励金を活用することにより、新たな産業の創出を支援するほか、ハローワークとの連携による就職フェアを開催し、若年層の市内就労支援に努めてまいります。

さらに、市内定住の若者を対象に、「たつの未来基金」を活用し、引き続き貸与型奨学金の返還を支援する「若者定住促進奨学金返還支援事業」を実施するとともに、子育てしやすい環境を整備するため、新たに三世帯同居等による住宅改修支援を開始し、移住・定住の促進に努めてまいります。

農業経営における担い手育成や遊休農地の解消に向け、地域農産物のブランド力の強化および生産者と実需者とのマッチングによる需要拡大や地産地消を促進いたします。

龍野地区の「重要伝統的建造物群保存地区」、室津地区の「日本遺産」など、地域の個性や資源を活かした観光施策を展開するほか、歴史文化遺産につきましても、磨きをかけ観光拠点としての活用を検討いたします。また、全国京都会議の開催により播磨の小京都「龍野」を全国に広く紹介し、観光誘客と観光振興の促進を図ってまいります。

龍野公園では、あらゆる人々が憩いの場として自由にかつ安全に楽しむことのできるインクルーシブ公園としての整備を行うとともに、動物園につきましても、動物の生態に配慮した快適な飼育環境の整備により、動物にやさしく、親子で楽しめる園となるよう努めてまいります。

また、頻発・激甚化する自然災害に対し、市民へ迅速に情報を伝達するため、防災行政無線設備や消防団デジタル無線機の更新を行うほか、自主防災組織の活動助成や消防器具の設置助成を継続し、地域防災力の強化を図ってまいります。

宝であることから、子育て世代から「子育てするなら たつの市」として選ばれるよう、魅力を高めてまいります。

妊娠・出産・育児の不安や困りごとなどに寄り添う伴走型相談支援や出産・子育て応援金の給付のほか、児童福祉と母子保健との一体的な支援体制整備の準備を進め、安心して出産・子育てができる環境づくりに取り組んでまいります。

繰り返される通園バス置き去り事故を教訓として、通園バスへの安全装置の設置や職員間で園児の登降園管理等の情報を共有できる保育支援システムを導入し、園児の安全確保を徹底いたします。

小・中学校におきましては、「たつの市小中一貫教育基本方針」に基づき、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進

3 新時代にふさわしい まちづくり

デジタル技術の活用が質の高い市民サービスの提供に寄与する考えのもと、行政手続のオンライン化の拡大や業務のデジタル化などにより、市民生活における利便性の向上が図れるよう、たつの市デジタル・トランスフォーメーション推進基本方針（TDX）の取り組みを加速させてまいります。

本庁舎玄関ホールに手続総合案内を設置し、「書かない窓口サービス」を開始いたします。また、防災情報アプリや公共施設予約システムの導入に取り組んでまいります。

また、国の補助制度を活用し3D都市モデル整備に取り組み、都市データ等の可視化やオープンデータ化を図るとともに、河川氾濫を想定した浸水シミュレーションなど、防災・減災の取り組みに活用してまいります。

さらに、デジタル社会のペースポートとなるマイナンバーカードの更なる取得促進に努めるほか、高齢者等を対象としたスマートフォン体験講座などを引き続き実施し、誰もがデジタル化の恩恵を享受でき、「誰一人取り残さない」人にやさしいデジタル社会の形成を目指してまいります。

し、新宮地域では、本市で初となる小中一貫校の設計業務に取り組んでまいります。

小・中学校の適正規模・適正配置につきましては、学校教育と直接関係のある児童生徒や保護者、地域との対話を重ね、丁寧に進めてまいります。

未来を担う子どもたちのため、「たつの未来基金」の活用により、通学児童の熱中症対策として汗吸収背あてパッドの配布や小学校普通教室への電子黒板導入、中学校文化部の発表の場を創出いたします。

児童生徒の不登校の未然防止や早期の改善のため、不登校サポートチームを設置するほか、学校部活動につきましては、学校と地域が連携した体制整備を検討してまいります。

学校給食につきましては、4月から北学校給食センターが

国が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現には、地域の脱炭素の取り組みが必要不可欠であり、持続可能なまちの実現や本市の豊かな自然環境などを次世代に引き継ぐためにも、ゼロカーボンシティの推進に取り組んでまいります。

また、持続可能な行政サービスの提供と将来に負担を残さない健全な行政運営を行うため、人口減少社会を踏まえた公共施設のあり方の検討を進め、JRR本竜野駅西側の公共施設等につきましても、施設の集約・複合化を推進するため、民間の参入動向や参入条件についてのサウンディング調査を実施するほか、未利用となっている旧県営住宅跡地につきましても、地域の実情を踏まえ、利活用に取り組みでまいります。

また、定住自立圏や連携中枢都市圏につきましても、構成する市町との連携により、役割や機能を補完しあうことで、持続可能な行政運営に努めてまいります。

社会に大きな変化が起こりつつある今、新しい日常の到来に向けて、先例にとらわれず、新時代への飛躍向上の足掛かりとなる施策を実行し、市民本位の行政運営を信条に全方位的な視点と一層の決意と覚悟を持って、たつの市の未来を切り拓いてまいります。

2 活力と魅力ある 力強いまちづくり

新たな商業施設の誘致を進める「龍野IC周辺まちづくり区画整理事業」につきましては、事業化パートナーとなる企業が決定し、本年、地元で土地区画整理準備組合の設立が予定されています。新たな地域活力と雇用、にぎわいを創出する重点プロジェクトとして全力で取り組んでまいります。

本市の南玄関口にふさわしい駅周辺整備や交通結節点強化、